

## 2026年度スノーボード準指導員検定 講評（種目別コメント）

### ① ミドルターン・2級デモンストレーション（合格率 87.0%）

2級の滑りを表現する事が求められる中で、スライドレンジ量の調整については全体的に良く表現できていた半面、スライド量への意識が強すぎたためか、ターンスペースやトランジションに対する意識が少し欠けている滑りが見受けられた。

一連の流れを意識することでより精度を高め、指導の現場で役立ててほしい。

### ② スイング to スイング（合格率 65.2%）

サイドの入れ替えが大きな着眼点となるこの種目においては、目線を安定させ、滑走ラインを認識することで、入れ替える地点を把握することがこの種目では重要となる。しかし、種目の流れ合わない動きをする受検者が多いと感じられた。目線が不安定になることで、自分自身の位置関係を把握することができていないケースがあり、推進力、回転力の調整に苦慮している滑りが多く見受けられた。

### ③ トラバースジャンプ（100%）

全体的にヒールサイドでの滑走については、少々不安定な一面も見受けられたが、転倒するまで不安定さではなかった。

### ④ ミドルターン（合格率 91.3%）

スノーボードのスペックに合ったボディコントロール、ボードコントロールがよく表現できていたことで、ホールド性の高い滑りが多かった。

### ⑤ ショートターン（合格率 56.5%）

ライダーによる自発的な操作がミドルターンに比べて必要となるが、ノーズの動きが少ない受検者が多く見受けられた。ノーズの移動量が少ないことで、テールが外側出してしまうテールスイングになっているケースが多い。（特にヒールサイド）

トランジションの段階で、ノーズの行先をしっかりと意識することが必要である。

### ⑥ フリーラン（合格率 78.3%）

ホールド性の高い滑りも見受けられたが、リズムの変化に乏しい単調な構成の滑りも見受けられた。ミドルターンやショートターンとは違い、自由度の高い種目であることから積極性がより意識されていれば全体的な評価が高まったと感じる。